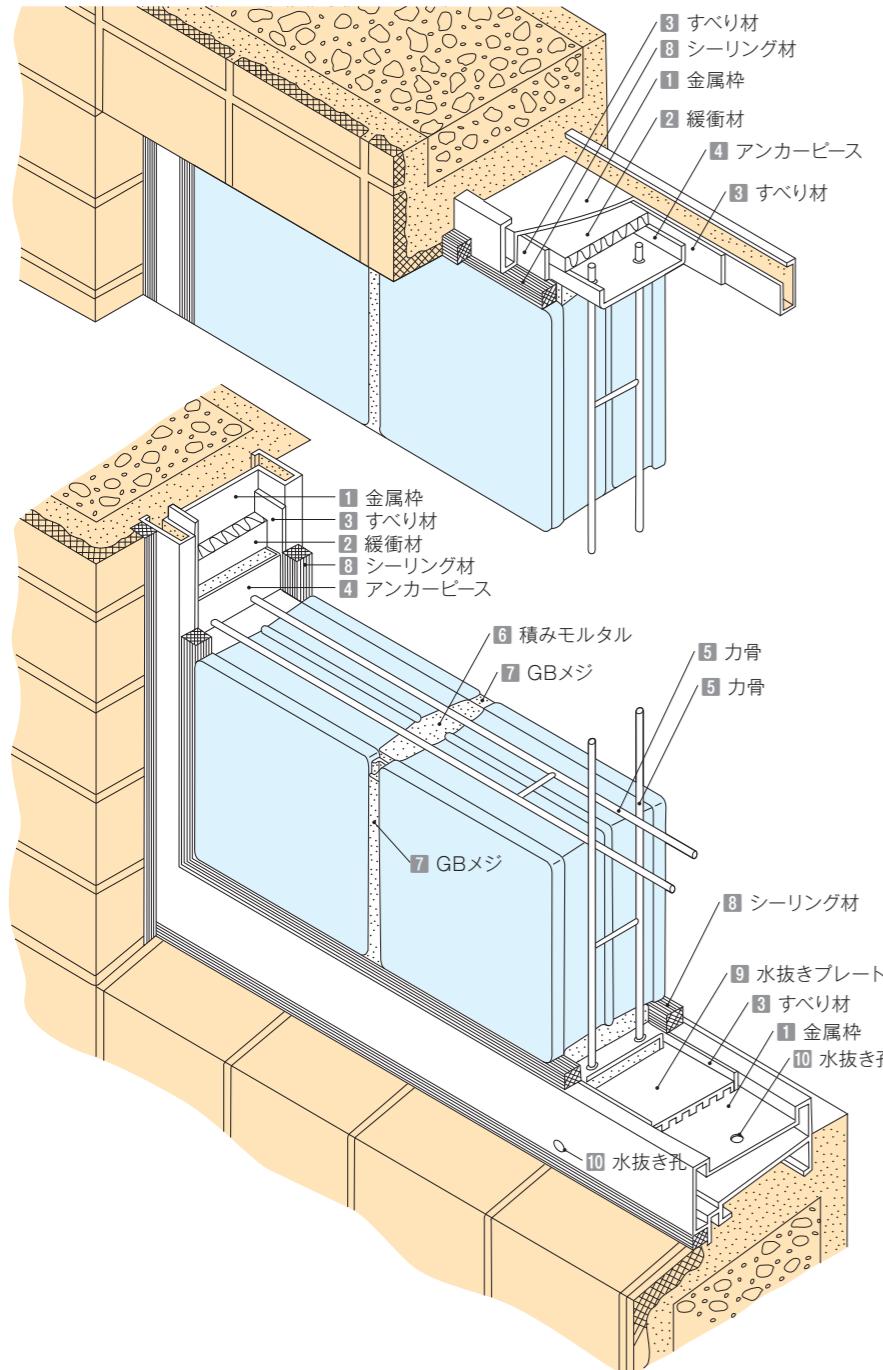


力
地震

ガラスブロック面は、緩衝材を開口部の上部と左右に設置することにより、躯体の変形に追随します。緩衝材の変形能力は厚みの75%ですので、10mm厚の緩衝材を使用すると開口部の左右合わせて15mmの層間変形量まで対応できます。層間変位1/200とすると、緩衝材の厚み10mmで開口高さ3mまで施工しても安全です。

標準施工図(1)



標準施工法の主な特徴は、ガラスブロック壁と躯体の間にエキスパンションを設け、風圧や振動に対してガラスブロック壁がフレキシブルに対応し、変形を吸収することです。これによって、ガラスブロック壁の安全性が確保されます。

用語

1 金属枠

躯体とガラスブロック壁との取合い部に用いるステンレス、アルミニウムなどの金属製枠材で、ガラスブロック工事に先立つて、あらかじめ躯体に取り付けておく部材。別途部材であるが、ガラスブロック壁専用の標準品が用意されている。サッシジョイント部の止水はガラスブロック施工前に確実に行ってください。

2 緩衝材(エキスパンション材)

ガラスブロック壁と躯体または取付枠との間に充填し、外部応力に伴う面内変形に追随するための発泡天然ゴム／ポリエチレンフォーム材料。

3 すべり材

ガラスブロック壁と躯体または取付枠の間を絶縁し、面内方向の変形に追随しやすくするためのEPDM系ゴムまたはブチルゴム材料。

4 アンカーピース

ステンレス製(SUS304)で、力骨を金属枠に支持させるためのもの。

5 力骨

ガラスブロック工事専用のステンレス製(SUS304)の補強筋。φ5.5mmの単筋とそれをはしご状に加工したもの。

*補強筋(力骨)は、SUS304の材質で直径5.5(+0.5, -0)mmのものを使用します。

6 積みモルタル

ガラスブロック積み上げ用のモルタル。

7 GBメジ

ガラスブロック専用の防水化粧目地材。水を加えるだけでよく、調合の必要がない。色は白色、灰色*の2色。

*灰色については、気象条件等により多少の濃淡が生じる場合があります。

8 シーリング材

金属枠とガラスブロックの取合い部またはエキスパンション目地部に施すポリサルファイドまたはシリコーン系のシール材。バックアップテープを用いて三面接着を避けてください。

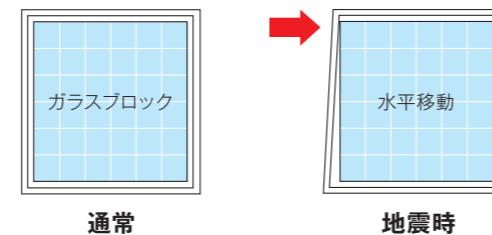
9 水抜きプレート

ガラスブロック壁下辺の金属枠に取り付け、目地や周辺取合部より万一雨水が侵入した場合、これを外部に抜く特殊塩ビ材料。

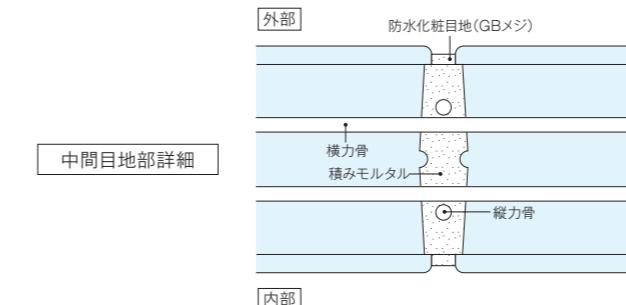
10 水抜き孔

金属枠の下辺に設け、水抜きプレートから抜けた水を外部に抜く孔。

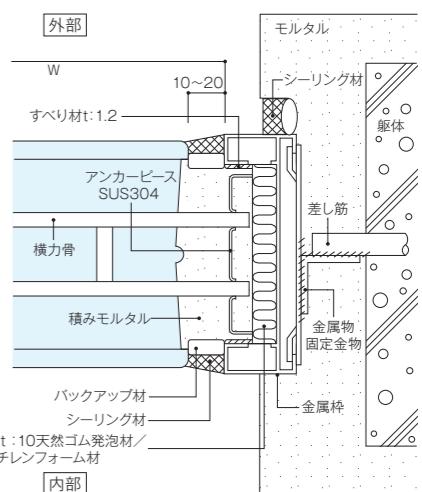
層間変位への追随イメージ



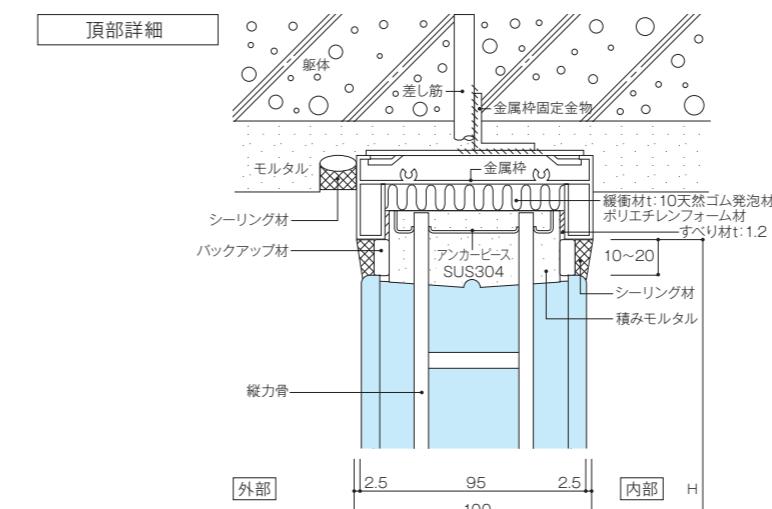
標準施工図(2)



側部詳細



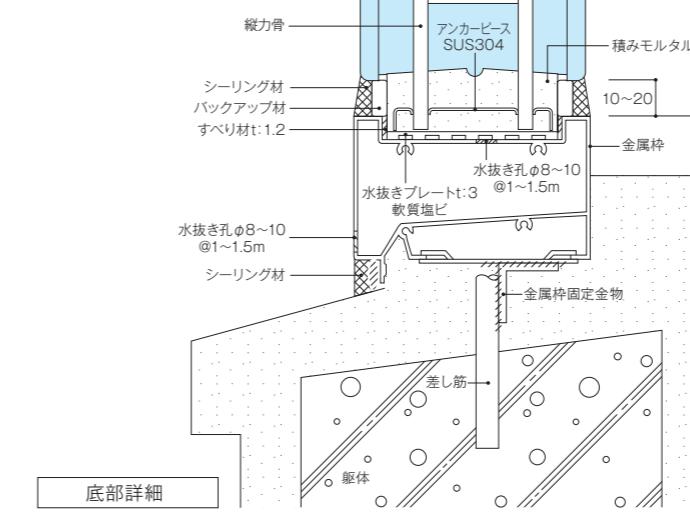
頂部詳細



外部

内部

H



底部詳細

ガラスブロック割付表(目地10mm)

個数(n)	ガラスブロック サイズ(mm)	145	190	300
	割付寸法(mm)	155	200	310
1	緩衝材t: 10天然ゴム発泡材/ポリエチレンフォーム材 すべり材t: 1.2	165	210	320
2		320	410	630
3		475	610	940
4		630	810	1,250
5		785	1,010	1,560
6		940	1,210	1,870
7		1,095	1,410	2,180
8		1,250	1,610	2,490
9		1,405	1,810	2,800
10		1,560	2,010	3,110
11		1,715	2,210	3,420
12		1,870	2,410	3,730
13		2,025	2,610	4,040
14		2,180	2,810	4,350
15		2,335	3,010	4,660
16		2,490	3,210	4,970
17		2,645	3,410	5,280
18		2,800	3,610	5,590
19		2,955	3,810	5,900
20		3,110	4,010	6,210
21		3,265	4,210	310n+10
22		3,420	4,410	
23		3,575	4,610	
24		3,730	4,810	
25		3,885	5,010	
以上		155n+10	200n+10	